

あの世に聞いた、この世の仕組み

(098)

考え方の問題だけなんだけどね。望みを叶えるには、ちょっとしたコツがあるんだよ。

世界は、神のつくった法則上でしか動かない。でも、これを逆にとらえれば（この法則がきちんと理解できていれば）、現実がどのようにつくられているのかがわかるってことなんだ。

これをうまく利用すれば、ある程度現実をコントロールできるようになる。

まず第一に、「この世」は「あの世」の一部だ。「この世」「あの世」と言葉は分かれ、まるで別物のように思われているけど、本当はこの二つを隔てる境界線はない。密接に関係して成り立つ一つのモノでね。「社会」という大きな枠組みの中に「会社」があるように、「あの世」という枠組みの中の「この世」なんだ。

でね、「この世」の法則は、基本的には「あの世」の法則と同じなんだ。

自分の思いそのものが、自分の現実をつくるという法則。ここから、少しややこしくなるから、注意して聞きなさい。

おまえが何かを考えると、宇宙がその考えをそのまま反映し、現実をつくり出す。これは地球でたとえるなら「万有引

力」などと同じ自然法則だと思うといい。その自覚があろうがなかろうが関係ない。宇宙は、おまえの思考をもとにおまえの現実を与えている。これが基本法則だ。

だから、それはおまえの望み方に問題があるんだよ。

いま私が話した内容を正しく解釈すれば、「望めば望むほど夢は逃げていってしまふ」ということに気づくはずだ。

夢や希望は追い求めてはいけない。引き寄せるんだよ。

おまえが何かを考えると、宇宙がその考えをそのまま反映し、現実をつくり出す。

この「そのまま」というのがポイントなんだ。宇宙はバカ正直なんだよ。機転が利かない。

だから、おまえの思考そのままをつくり上げようとする。

おまえは、「守護霊さん」ともつと円滑にコミュニケーションをとりたい」と言った。だから宇宙は「守護霊さん」ともつと円滑にコミュニケーションをとりたい状況」をそのままつくっている。

わかるかい？ 「もつと円滑にコミュニケーションをとりたい」という言葉の裏には「いま私はうまくコミュニケーションがとれていない」という意味が含まれている。だから「うまくコミュニケーションがとれない現実」がそのままでき上がっているんだよ。

な、おもしろいだろう？ 人間は欲をかくと失敗する。その理由はここにあるんだ。

「私という独立した存在がある（自我）」というこの錯覚・思い込みは、仏教では『有身見』^{うしんけん}という言葉で説明されていてね、煩惱の一つなんだ。

この「自」と「他」を分離する壁がなくなる状態、つまり、自我が消えた状態のことを『無我』^{むが}と言う。「無我」は、読んで字のごとく「我が無い」という意味だが、それは「存在が消滅する」ということではない。

「自他を分ける壁がなくなり、あらゆる存在と一つとなり”私”という独立した概念がなくなる」ということなんだ。「存在」は「存在」としてありつづける。

「世界には、たくさんの命がある」という勘違い・思い込みは、人間が長きにわたりはまっている呪縛だ。多くの人間は、鈴木さんの命、佐藤さんの命、犬の命、虫の命、植物の命……そうやって、無数の命が存在していると思っている。

でも本当はそうじゃない。おまえの体の細胞が、日々変化しつづけているのと同じことだよ。

伸びた爪を切っても、命はなくならない。髪を切っても、「ああ、自分が死んだ！」とはならないだろ。髪を切っても、おまえはおまえとして生きつづけている。髪の毛、爪の命、内臓の命、心臓の命、脳の命、と分かれて存在しているわけじゃない。爪を生かしているのも、髪を生かしているのも、内臓を生かしているのも、心臓を生かしているのも、脳を生かしているのも、たった一つの同じ命だ。

それと同じように、おまえを動かしているのも、佐藤さんを動かしているのも、鈴木さんを動かしているのも、動植物を動かしているのも、地球を動かしているのも、太陽を動かしているのも、壮大な宇宙全体を動かしているのも、同じ命だ！

命はたった一つしかないんだよ。そして、その命、生命そのものが、おまえの本来の姿なんだ。自分が、自分の命を所有しているわけじゃない。命が自分なんだよ。

だから、おまえを生きている命と、私を生きている命は、一つの同じもの。私が「私はおまえだよ」だとか、「すべてがおまえだよ」つて言うのは、そういうことなんだ。